



NZSJ は 1959 年 11 月から数えて、今年は創立 60 年目を迎えております。

日本ニュージーランド協会 ニュースレター  
*NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN*

**WAIHEKE** 2019 年 6 月号

\*\*\*\*\*

## 映画鑑賞会のお知らせ

### 『クジラの島の少女』

映画の原題は「Whale Rider」ウィティ・イヒマエラの原作を

ニュージーランドの女性映画監督が映画化

日時：2019 年 6 月 22 日（土）13:00～16:00

会場：[カラオケ ビッグエコー新宿東口店](#)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3 丁目 26-2 新宿第 2 ビル

 03-5312-0366

（JR 新宿駅東口より 徒歩 5 分）

会費：4,000 円（食事＋飲み放題）

参加希望の方は 6 月 14 日（金）までに

[hp-manager@nzsj.extrem.ne.jp](mailto:hp-manager@nzsj.extrem.ne.jp)

宛、または最寄りの理事までご連絡下さい。

# 日本ニュージーランド学会との合同研究会の報告

日時：2019 年 3 月 16 日(土)14:00～17:00)

会場：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

懇親会：同じ会場(17:50～18:30)

## 第一報告(14:00－14:10)

佐久間 美羊（千葉経済短期大学）

「エリック S ベルの軌跡～日本をこよなく愛したあるニュージーランド人～」

エリック・ベル(1890～1964)の日本における軌跡をお話し頂きました。

過酷な抑留を生き延びたニュージーランド人男性の親族がその生きざまを知ろうと来日し、横浜市内にある抑留跡地などを訪れた。

エリックさんは早稲田大学や横浜商業学校などで英語を教える傍ら、関東大震災などの日本での出来事をジャーナリストとして世界に発信しています。

日本文学にも深く興味を持ち、横浜商業学校の 50 周年記念誌には彼が英訳した芥川龍之介の「蜘蛛の糸」が載りました。日本を愛して、戦後も日本に留まり日本の発展に尽くした人の一人でもあります。

今回来日したグラハムベルさんはエリックさんの兄の孫でエリックさんが日本から出した古い手紙を見つけて、親族の誰も詳細を知らないこともあり、大叔父であるエリックさんの生涯を知る上にも今後も、調査を継続されるということです。

歴史的には多くの日本人に知られることもないニュージーランド人の生涯を知ることができ、大変感銘いたしました。

## 第二報告(15:20－16:50)

大地 佐和子（染め工房、佐和）

「ニュージーランドをテーマにした振袖制作～イマジンきものプロジェクトのご報告」

イマジンワンワールドきものプロジェクトに関しての発足から、大地さんがニュージーランドをイメージした着物のデザインを任されてから完成までのプロセスを映像ビデオを見せて頂きながら説明頂きました。

最初のデザインの考案からニュージーランド大使館のご意見を踏まえて、途中で今までの考案をあきらめ、最初からデザイン考案を書き直し、最終的に 6 考案までの約一か月半の期間を要しました。その間は、資料の収集、関係者からのアドバイス、最終的にニュージーランド人の感性を大切にしながら生み出した結果、素晴らしいデザインのきものが完成しました。



ニュージーランドをテーマに制作した振袖：オールブラックスを連想する、黒の地色に、鳥と花の楽園であるニュージーランドの自然を描きました。  
 (一般社団法人イマジンワンワールド ホームページ KIMONO PROJECT [「No.096 New Zealand」](#) に掲載中です)

全世界の 196 各国の特徴をデザインする「きものプロデュース」の企画です。着物の未来のため、世界の平和を日本から発信するために、立ち上げられたプロジェクトです。



一般社団法人イマジンワンワールド ホームページ[「KIMONO PROJECT」](#) より  
 全世界の国々の着物のファッションショーは絢爛豪華なショーとなることでしょう。

日本ニュージーランド協会

会長 山崎 弘子

## 季節のご挨拶(2018 年)

今年もあと僅かとなりました。一年でいちばん緑の濃い季節となりました。蝉が鳴き始めますが、賑やかな蝉時雨とまでは行きません。鳥たちは元気に活動しています。

この NZ に居を構えて、今年で 9 年になります。NZ にいるときには、午前中に台所仕事、掃除、原稿書き、翻訳(仕事)、身辺整理をし、午後には天気さえよければ外に出ます。畑のこと、家の修理・手入れ、風で落ちてきた枝の処理、薪作り、草刈り、外掃除などの仕事がたくさんあります。中でも主なものはガーデニングです。無農薬有機栽培で野菜や果物を作っています。



そして、2 月と 8 月には日本へ帰国しています。この帰国にくっつけて、どこか歴史の長く文化的に豊かな国々を旅するというのが、このところのパターンとなってきました。

2019 年は、日本でラグビーワールドカップが開催されます。ニュージーランドは過去 8 回の大会のうち 3 回優勝している強豪です。2011 年、2015 年と連覇しています。当然のことながらワールドカップへの関心も高く、日本のこともよく聞かれるようになってきました。

今年も季節のご挨拶をお送りします。NZ での生活、考えていることなどを今年も纏めました。文中に H とあるのはヒトシ、J はジリアンのことです。お読みいただけると幸いです。

### 12 月になると

12 月になると南向きの台所の右手(西側)の窓から夕陽が差し込むようになります。台所仕事をしていた、夕陽が差し込んでくると、一年のうちでこの時期だけのことから、今年もあと僅かになったと実感します。

新聞にクリスマスの宣伝が増えてきます。テレビのことはよく分かりませんが、台所に置いたラジオの FM 放送からは、日本で定番の「ジングルベル」や「清しこの夜」といったクリスマスソングはほとんど流れてきません。

晴れる日が多くなるのも 12 月です。ここでの天気は、晴れる日が続くかと思うと、一転して雨の日が続くということがよくありますが、12 月からは外での活動に絶好のシーズンとなってきます。シャワシャワと鳴く蝉の声も聞こえてきます。20 日頃には火災予防のため、焚火禁止が始まります。ガラス戸にはめ込んでおいた手製の障子を取り外すのも 12 月です。そしてクリスマス。

## ガーデニング

引き続き、無農薬有機栽培に取り組んでします。雨さえ降らなければ、たいいてい午後から外に出て、ガーデニングに時間を費やしています。

やはりこの土地に向いているもの、そうでないものがあるようです。パースニップ（白ニンジン）は強靱で、雑草の中でも雑草を押しつけて育っています。逆に難しいものに赤しそがあります。梅干しづくりに欠かせないものですが、何回タネを播いても発芽してきません。

タネが大きく簡単に栽培できると思っていたハヤトウリですが、植えてから一ヶ月以上になるのに、何ら動きがありません。昨シーズン、イチゴのランナーをたくさん移植しました。これが順調に育っていて実を付けたのですが、これを狙って鳥たちが来るようになりました。ネットを被せて栽培するようにしました。

年間を通して、この気温は高低差が少ないのが特徴です。そのため高い気温の好きなゴーヤやショウガなどはなかなか大きくなりません。

## 裏の畑

家の南側にあたるところにパドックがあります。ここは南に傾斜した土地であり、南半球では太陽は北側から差すので、あまり畑にするにはよくないところとされています。それに加えて家とこのパドックの間には大きな木が一本、生えていて北側からの日差しを妨げています。そんなこともあり、このパドックはこれまで、ほとんど使わないままにしてきたのですが、昨シーズン、ここの一部にカボチャを植えてみたところ、初めてにしてはよくできました。たぶん水はけがいいのが、その理由です。

そんなこともあり今シーズンは、ここを集中的に開発しました。鍬で表面の草を剥ぎ取り、備中で起こし、ティラーで何回も打ちました。表面の下には石はなく、土が深くまであります。乾燥馬ふん、草木灰、コンポストをまいてティラーで打つといい畑になりました。今ではカボチャ、サツマイモ、トマトなどが育っています。できれば今シーズン中に、家と畑の間にある木を友人に切ってもらい、より日当たりのいい場所にしたいと思っています。

## ウメ

大きく育ち、樹高は3mを越すまでになりました。しかし実が成らない。昨シーズンは3個でした。果樹の場合、自家不和合性といい自分の木の花以外に他の木の花がないと、実がつかないという現象があります。このために実が成りにくいのではないかと半分諦めていたのですが、今年は19個の実をつけました。こんな調子で増えていってくれたら、この木一本で梅干しの完全自給も夢ではなくなりそうです。

## キウイ

キウイの木にはオスとメスとがあります。両方の木がないと、実はなりません。もともとキウイのオスが自生していて、大木になっています。これに今年もメスの枝を接木しました。接木はほとんど成功。昨シーズンは70個の収穫が出来ましたが、今年は更に収穫が増えるものと楽しみにしています。キウイはこの地に適していると思い、他のパドックにも、新しく2本のキウイを植えました。

## りんご

矮性台木を接木して、丈の高くならないようにした3本のリンゴの木があります。品種はフジ、ローヤルガラ（NZではもっともポピュラーな品種）、それにゴールドデンデリシャスです。この3本は同級生ですが、今では育ちに大きな差がついてしまいました。何ととってもローヤルガラは、この地に向いていないようで実をほとんど付けたことがなく、大きく育っています。一方、ゴールドデンデリシャスはたわわに実を付けます。当然のことながら木は小さいままです。フジはこの2本のだいたい中間です。あまりにローヤルガラが情けないので、昨夏と今春に高継ぎをしました。来シーズンを注目しています。

## ブドウ

ブドウは、パドックを仕切るフェンスを使って栽培しています。春先にたくさんの花を付けていたので成り年ではないかと期待していたのですが、ここにきて花のあとが枯れてしまうのが出てきました。それとは反対に、順調に実を大きくするものもあります。この12月にそれらを見比べながら、整枝と誘引の仕事をしています。

続く

ジリアン・ヨーク 理事

年会費納入お願い 会員の方は2019年度の年会費3,000円を例会ご出席時にお支払い願うか、郵便局でお振込み下さい。

お手数ではございますが、今後、(本年度11月以降は) ゆうちょ銀行の  
記号 10180 番号 74818531

名前 ニホンニュージ ーランド キョウ  
へお振り込みくださいますようお願い申し上げます。

尚、郵便局の振替用紙(払込取扱票)を用いた、

口座記号番号:00190-1-743478, 加入者名: 日本ニュージーランド協会  
への振り込みは廃止することといたしました。

日本ニュージーランド協会のホームページ <http://nzsj.tokyo>

日本 NZ 協会の今後の予定

2019年7月27日 ワインパーティー

NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN (日本ニュージーランド協会)

2019年度理事(会長以外は50音順)

会長: 山崎 弘子    理事: 麻生 敏子、生沼 玲子、神谷 尚武、片山 愛一、  
佐藤 松雄、島田 勝弘    Jillian Isabelle Yorke、真島 由香、  
庄司 桂一郎(副会長)、丸山 有紀子(会計)、水野 伸夫(副会長)、  
監事: 梅谷 要    顧問: 黛 雅男